

日本学術振興会バンコク研究連絡センター 活動報告（2014年4月～6月）



【チェンマイ大学で実施したJSPS事業説明会参加者】

■ センター長挨拶

JSPS バンコク研究連絡センターの活動報告「バンコクの風」(2014年4～6月分)をお届けします。6月末日をもってバンコクセンター長として当初委嘱を受けました2年間の任期を終え、今後さらに一年間センター長を委嘱されました。今まで同様、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

この報告書のカバーする期間の出来事で最大のものは、何と言ってもタイのクーデターでしょう。5月19日に東京でのセンター長会議を終えてバンコクに戻ったその日に、戒厳令が發布されその3日後には、軍事クーデターに進展するという動きとなりました。

クーデターという言葉の持つ響きが、「社会の転覆、革命、流血」を連想させますが、昨年来数か月続いた反政府グループによる幹線道路の閉鎖などで、市民の中には「うんざり感」が溜まっており、今回の軍部による統制は、従来の政府、反政府双方を縛るという形になり、今のところ市民のある程度の支持を得た「無血クーデター」という形で推移しています。

こういうタイの社会状況に関わらず、日本の大学の国際化の動きは活発で、バンコクに事務所開設のラッシュとなりました。4月の中旬などは、一週間の間に、首都大学東京、長岡技術科学大学、名古屋大学のオフィスが立て続けに開設され、6月には京都大学 ASEAN センターがオープン、これでバンコクには30近い日本の大学がオフィスを構えることになりました。それらのバンコク事務所にとって、タイからの留学生確保というのが大きな任務ですが、タイや ASEAN 諸国の大学との研究連携促進を視野に入れているところも多くあります。JSPS バンコク研究連絡センターは、それらの大学との連絡を密にして、できる限りの支援、協力をしていきたいと思っています。

2014年7月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長 山下邦明

目次

JSPS事業説明会の実施

4月10日	タイ・パトムワン工科大学	P.3
5月2日	タイ・マヒドン大学	P.4
5月30日	タイ・チェンマイ大学	P.5
6月17日	タイ・カセサート大学カンペンセンキャンパス	P.6

バンコク研究連絡センターの参加イベント

4月23日	首都大学東京バンコク事務所オープニングレセプション	P.7
4月24日	長岡技術科学大学タイ事務所開所記念グローバル実務訓練セミナー	P.7
4月25日	名古屋大学バンコク事務所開所式	P.8
6月28日	京都大学地球環境学堂・JSPS 研究拠点形成事業採択プロジェクト「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成」第8回ワークショップ	P.8
6月27日	京都大学 ASEAN 拠点開所式及び記念シンポジウム	P.9

JSPS 同窓会情報

4月9日	第14回JSPSタイ同窓会理事会の実施	P.10
------	---------------------	------

特集

独立行政法人国際協力機構アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト事務局 小西伸幸副チーフアドバイザー寄稿	P. 11
--	-------

センター活動記録

P. 14

コラム

ブアさんのタイご案内	P. 15
------------	-------

ダイスケさんのダイ好きアジア	P. 16
----------------	-------

学術情報（2014年4月－6月）	P. 17
------------------	-------

JSPS 事業説明会の実施

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育、研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターの訪れた大学や研究機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

■ タイ・パトムワン工科大学（4月10日）

パトムワン工科大学は、タイにおける最初の工業系の職業技術学校として1932年に設立され、2004年に高等教育委員会の認可を得て、工科大学となりました。設立以来、応用理工学系の教育に力を入れてきました。

同大学の Panya Minyong 学長は、国費留学生として豊橋技術科学大学で博士号を取得されています。そのため、日本の大学との連携にも力を入れており、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、一関工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校と覚書を締結し、日本の高等教育機関との学生及び教員の交流を行っています。



事業説明会には、12名が参加し、副センター長より、論博事業、外国人特別研究員事業を中心に JSPS の国際事業の説明を行いました。

説明会には、日本の大学で研究をした経験を持つ研究者も参加しており、ホスト研究者の探し方や申請書の書き方等、具体的な質問が数多く寄せられました。これに対して、当センターより、日本の提携大学に所属する研究者にホスト研究者の打診をしてみること、また、論文の実績を積み上げることが大切であることなど、助言を行いました。

【左から轟国際協力員、パトムワン工科大学三輪完 JICA シニアボランティア、Panya 学長、山田副センター長、Bovonphubes Phupadne 国際課長】





マヒドン大学は、2013年4月に発表されたTimes Higher Education アジア大学ランキングで 61 位に位置づけられており、特に国際展開の面で高い評価を受けています。

今回の事業説明会は、3月24日にマヒドン大学を表敬した際に、Prasit Palittapongarnpim 研究担当副学長に、同大学での JSPS 事業説明会開催を了承していただいたことで開催することができました。

事業説明会には、表敬訪問の際にもご一緒させていただいた大阪大学 ASEAN センター望月センター長にもご参加いただきました。

事業説明会では、Prasit 研究担当副学長から挨拶いただきました。また、JSPS 論文博士号取得支援事業において長崎大学で博士号を取得されたタイ保健省の Dr. Archawin Rojanawiwat より、日本での研究や生活について自身の経験や、申請の際の具体的なアドバイスを話していただきました。質疑応答では、外国人特別研究員や外国人招聘研究者へ申請したいが、受け入れ研究者をどのように探したらよいかという質問が数多く寄せられました。これに対して、山下センター長より、バンコクには 20 以上の日本の大学がオフィスを設置しており、日本の受け入れ研究者を探す際に、ぜひこれらのオフィスを活用してほしいと回答しました。



【講演を行う Dr. Archawin】

また、大阪大学 ASEAN センター望月センター長より、大阪大学に所属する研究者との連携を希望する場合は、ぜひ、同大学の ASEAN センターに連絡してほしいとアドバイスいただきました。さらに、Prasit 研究担当副学長からは、マヒドン大学は複数の日本の大学と協定を結んでおり、受け入れ研究者を探している場合、マヒドン大学の国際部が力になると、研究者に対して助言いただきました。



今回の説明会には、若手研究者を中心に 50 人ほどが参加し、JSPS 国際事業に高い関心を持っていただきました。また、今回の説明会では、タイにオフィスを設置する日本の大学が、タイと日本の研究者の連携を促進するうえで大変大きな役割を果たしていることを改めて認識しました。

【左から Ratana Petch-Urai 研究マネジメント部長、Dr. Archawin, Prasit 研究担当副学長、山下センター長、轟国際協力員、大阪大学 ASEAN センター望月センター長、Buabchamane リエゾン・オフィサー】



■ タイ・チェンマイ大学（5月30日）

チェンマイ大学は、今年で創立 50 周年を迎える歴史ある大学であるとともに、2014 年 QS アジア大学ランキングにおいて 92 位に位置づけられ、学術面においても高い評価を受けています。今回の事業説明会には、若手から中堅の研究者まで 50 名ほどが集まりました。

事業説明会のオープニングに先立ち、会場で JSPS 広報映像「JSPS Supports Science」を放映し、タイ人研究者たちに JSPS の学術支援の方針を紹介しました。



【JSPS との連携について説明するタイ学術研究会議（NRCT） Pimpun 国際事業部長】

Avorn 学長補佐による開会挨拶の後、まずセンター長が JSPS の概要を説明し、続けて副センター長がタイ語で JSPS 国際事業について説明を行いました。また、JSPS のタイにおけるカウンターパートであるタイ学術研究会議（NRCT）の Pimpun Pongpidjayamaad 国際事業部長にもご参加いただいております、JSPS と NRCT が長年協力して日本とタイの研究者の交流を支援してきたこと、また、論文博士号取得希望者に対する支援事業、二国間交流事業について申請手続きや支援実績をご説明いただきました。

また、JSPS 論文博士号取得希望者に対する支援事業において、神戸大学で博士号を取得されたチェンマイ大学医学部 Sirikan Yamada 准教授と北海道大学で博士号を取得されたチェンマイ大学理学部 Saisamorn Lumyong 教授に、同事業へ申請した経緯や、日本での研究生活と同事業を機に構築した日本人研究者とのネットワーク等についてお話しいただきました。

さらに、JSPS タイ同窓会（JAAT）の Sunee Mallikamarl 会長と Jiraporn Chauvalit 理事にも、タイ北部地方での同窓会活動を強化するためにご参加いただき、JAAT の活動について説明いただきました。



【講演を行う Sirikan 准教授】



【下段左からセンター長、Sunee 会長、Jiraporn 理事、上段左から、Buabchamanee リエゾン・オフィサー、Saisamorn 教授、Sirikan 准教授】

質疑応答では、若手研究者からは、主に研究者招聘事業について、中堅の研究者からは二国間交流事業や研究拠点形成事業について質問を受けました。JSPS バンコク研究連絡センターおよび NRCT から申請手順などについて回答するとともに、Sirikan 准教授と Saisamorn 教授から、申請する際のアドバイスを行っていただきました。

事業説明会后に、Sunee 会長、Jiraporn 理事、Sirikan 准教授と Saisamorn 教授及び、JSPS バンコク研究連絡センターで JAAT 地域会合を実施しました。Sirikan 准教授と Saisamorn 教授に、同窓会に加入していただくとともに、タイ北部での JAAT 活動の中核として活動していただくよう Sunee 会長より依頼しました。また、7 月に実施した JAAT 理事会に北部同窓会員の

代表として Sirikan 准教授にご参加いただきました。JAAT にチェンマイ大学から二人の会員を新たに迎え、これを機にタイ北部において JSPS タイ同窓会の活動が活発化することが期待されます。

■ タイ・カセサート大学カンペンセンキャンパス（6月17日）

カセサート大学は、農業、林業、漁業、法律と経済の4つの学部をもとに、70年前に設立されました。現在では、同大学の農林業分野は世界的にも高く評価されており、2014年分野別のQS大学ランキングにおいては、世界で48位と位置づけられています。同分野における日本の大学との共同研究も盛んで、現在、JSPS国際事業において、カセサート大学との共同研究を5プロジェクト以上支援しています。

カンペンセンキャンパスは、同大学の所有する4つのキャンパスの中の一つです。大学の発展とともにメインキャンパスであるバンケンキャンパスが手狭になったため、より農業の研究と教育に適した土地を求めて、35年前にバンコクの郊外に建設されました。1,272.1ヘクタールという広大な敷地の中に、6つの学部と農場や植物園、動物病院や牧場があります。



【カセサート大学付属動物病院】



【農業工学分野の校舎】



【Dr. Suratwadee による論博事業説明】

同キャンパスで研究員を勤めておられる JSPS タイ同窓会の理事である Dr. Suratwadee Jiwajinda に招待いただき、カンペンセンキャンパスで初めての JSPS 事業説明会を実施しました。

若手を中心に、20名以上の研究者が参加し、山田副センター長がタイ語で JSPS 国際事業を説明しました。また、Dr. Suratwadee からは、JSPS 論文博士号取得希望者に対する支援事業にて、京都大学で博士号を取得されており、同事業の申請手順や申請書の書き方を丁寧に説明していただきました。

参加者からは、日本人の受け入れ研究者の探し方や、外国人研究者招聘事業で求められる学術実績などについて質問がありました。これに対して、当センターより、受け入れ研究者を探す際に、日本の大学が、ホームページ上で公開している研究者情報を活用できること、また、事業へ申請する際には、論文実績が大切であることをアドバイスしました。



バンコク研究連絡センターの参加イベント

バンコクでは、国際的な学術シンポジウムやイベントが数多く実施されており、当センターも積極的に参加し、これらの機会に、ASEAN 地域の最先端の学術情報の収集に努めております。また、学術機関や大使館、領事館なども訪問し、当該国の学術情報の収集や日本の学術情報の発信に努めています。

■首都大学東京バンコク事務所オープニングレセプション（4月23日）



首都大学東京は、同大学初の海外拠点として、チュラロンコン大学内にバンコク事務所を設置し、今後、ASEAN 地域の大学・研究機関等との国際連携をより強化していく予定です。

レセプションでは、同大学と大学間学術交流協定を締結しているチュラロンコン大学 Pirom Kamolratanakul 学長及び首都大学東京の原島文雄学長より挨拶が行われ、今後の両大学の研究教育面での連携について述べられました。また在タイ日本国大使館小林参事官、俵幸嗣一等書記官、国際交流基金福田所長、日本学生支援機構山本所長、山下センター長よ

り来賓挨拶が行われ、首都大学東京のバンコク事務所開設を歓迎しました。

レセプションには、タイにオフィスを設置する日本の大学関係者も数多く参加しており、ASEAN 地域における各大学の活動について参加者間での情報交換も活発に行われました。

■長岡技術科学大学タイ事務所開所記念グローバル実務訓練セミナー（4月24日）

長岡技術科学大学は、教育研究面において連携してきたタマサート大学の協力を得て、同大学ランシットキャンパス内にタイ事務所を開設しました。文部科学省国立大学改革強化推進事業に採択された「三機関（長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学・国立高等専門学校機構）が連携・協同した教育改革事業」の一環として設置したものです。

今後、同大学は、タイ事務所を拠点にし、タイ国内の大学との教育研究の連携の推進、また、学生のインターンシップ提供先となるタイ国内の企業や機関との連携も強化していく予定です。



【挨拶を行う武藤睦治副学長】



セミナーでは、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構の3機関の連携状況、また、海外機関との連携について説明が行われたほか、長岡技術大学の提供するタイ国内の企業でのインターンシッププログラムに参加した同大学の学生による実務訓練経験の報告も行われました。

■ 名古屋大学バンコク事務所開所式（4月24日）

名古屋大学は、タイ及びその周辺諸国で展開している複数のプログラムをはじめ、タイの大学との学術交流や留学生獲得に向けた活動及び同学の情報発信のアジア諸国における拠点としてバンコク事務所を設置しました。

開所式では、名古屋大学濱口道成学長、チュラロンコン大学 Pirom Kamolratanakul 学長が挨拶を行い、名古屋大学とタイの大学の長い連携の歴史に言及され、今後もバンコク事務所を拠点として ASEAN 地域の大学と名古屋大学の研究者及び学生の交流を促進していきたいと述べられました。また、在タイ日本国大使館佐藤重和特命全権大使より来賓挨拶が行われ、現在、多くの日本の大学がタイで活動していることをとてもうれしく思うと述べられました。その後、チュラロンコン大学石油・石油科学研究科リサーチサービスセンター内に設置された名古屋大学バンコク事務所にて両学長によるテープカットも行われました。開所式に引き続き開催されたレセプションでは、山下センター長が乾杯の挨拶を務めました。



【挨拶を行う濱口学長】



【名古屋大学バンコク事務所内見学】

■ 京都大学地球環境学堂 JSPS 研究拠点形成事業採択プロジェクト「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成」第8回ワークショップ（6月27日）

京都大学 ASEAN 拠点開所式に先立つプレシンポジウムの一環として、京都大学地球環境学堂 JSPS 研究拠点形成事業「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成」の第8回ワークショップ開催され、センター長が出席し、挨拶を務めました。

ワークショップには、ベトナムから4大学（ハノイ理工科大学、フエ大学、フエ農林科大学、ダナン工科大学）、カンボジア（王立農業大学）、ラオス（チャンパサック大学）からそれぞれ1大学、タイから3大学（マヒドン大学、キングモンクット・トンブリ工科大学、キングモンクット・ラカバン工科大学）が参加し、それぞれの環境問題への取り組み事例を発表しました。



【「インドシナ地域における地球環境学連携拠点の形成」ワークショップ参加者】

■京都大学 ASEAN 拠点開所式及び記念シンポジウム（6 月 28 日）



【松本京都大学総長による挨拶】

京都大学は、ASEAN 地域の大学との研究及び教育における連携を支援し、同地域におけるグローバルネットワークを強化する拠点として、バンコク市内に ASEAN 拠点を設置しました。

式典に先立ち、「Kyoto University and ASEAN -Past, Present, and Future」と題された記念シンポジウムでは、ASEAN 各国の大学と連携して実施している 4 つの研究プロジェクト及び、3 つの教育プロジェクトが紹介されました。

また、ASEAN 各国の大学との研究や教育連携プロジェクトを紹介するポスター展示も同時に実施され、文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムや JSPS アジア研究教育拠点事業に採択されたプロジェクトも含まれていました。

式典では、松本紘京都大学総長の挨拶に引き続き、土屋定之文部科学審議官、佐藤重和在タイ日本国大使館特命全権大使より、京都大学がタイに事務所を設置したことに対し、歓迎の意が述べられました。また柴山守京都大学 ASEAN 拠点長より、同拠点の役割が紹介されました。

式典後のレセプションでは、参加者間で積極的に情報交換が実施されました。特に、センター長の専門分野である持続可能な開発のための教育（ESD）について、防災面からの研究に携わっている京都大学大学院地球環境学堂ショウ・ラジブ教授とお会いし、防災分野での ASEAN 各国との研究連携においては、日本の高い技術分野が着目される傾向にあるが、防災のためには、日本の人文社会科学分野での研究連携も重要であるというご意見をいただきました。

2014 年度に入り、首都大学東京、名古屋大学、長岡技術科学大学がバンコクに事務所を開設し、京都大学を含めて、現在、30 近くの日本の大学がタイに事務所を設置し、ASEAN 域内の高等教育機関や研究機関との教育及び研究の連携が加速しています。



【柴山拠点長による拠点の説明】



【日本及び ASEAN 各国の高等教育及び科学技術関連機関の関係者総勢 250 名以上が同式典及びシンポジウムに参加】

JSPS 同窓会情報

バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・バングラデシュ・フィリピン JSPS 同窓会の活動支援を行っています。

2014 年 4 月～6 月期の同窓会の活動を報告します。

■ 第 14 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会の実施（4 月 9 日）

昨年の 2 月に理事が交替し、新体制となってから初めての理事会がタイ学術研究会議（NRCT）で開かれました。Sunee Mallikamarl 会長をはじめ 5 人の理事に加えて、オブザーバーとして当センター及び NRCT が参加しました。



主な決定事項は以下のとおりです。

- ・ 2014 年 8 月 8 日に開催される NRCT 主催の Thailand Research EXPO において、JAAT は午前中のセッションで「健康と医療のための研究」というテーマに基づいてセミナーを行うことになりました。Danai 理事が日本から講演者を 1 名招へいし、JSPS は招聘にかかる費用を支援します。
- ・ JAAT の英語対訳版の規約が承認されました。
- ・ 地方における JAAT の同窓会活動を活発化させるために、チェンマイ大学、コンケン大学から同窓会会員を理事会にオブザーバーとして招聘する意向が確認されました。
- ・ Sunee 会長及び Jiraporn 理事が、5 月 30 日にチェンマイ大学で実施する JSPS 事業説明会に参加し、事業説明会後に、JAAT 新会員獲得のために同窓会の会合を行うことに決まりました。
- ・ NRCT 理事長、在タイ日本国大使を JAAT の名誉会員として加えることになりました。



JSPS タイ同窓会は、JSPS のタイにおけるカウンターパートである NRCT の多大な協力の下に運営されており、理事会へのオブザーバー参加に加えて、会議室を提供いただいています。NRCT の支援の下、今後、JSPS タイ同窓会のさらなる会員同士ネットワークを強化や積極的な活動展開が期待されます。

【理事会に参加した JAAT 理事、NRCT、JSPS バンコク研究連絡センターメンバー】

タイには、日本の高等教育機関の事務所が数多く設置されています。その中から、今回は、独立行政法人国際協力機構アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト事務局小西伸幸副チーフアドバイザーにご寄稿いただき、同プロジェクトの活動の紹介と、タイ及びASEAN地域の高等教育の動向について情報提供いただきました。

独立行政法人国際協力機構

アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト

ASEAN University Network / Southeast Asia Engineering Education Development Network

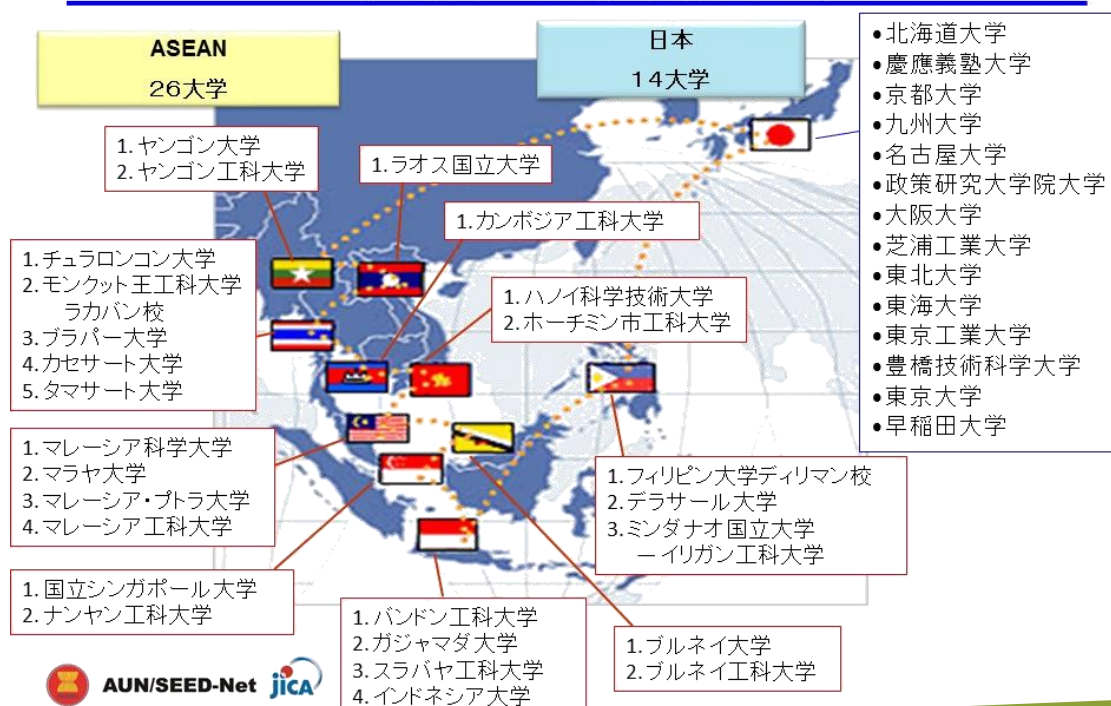


1. 背景と概要説明

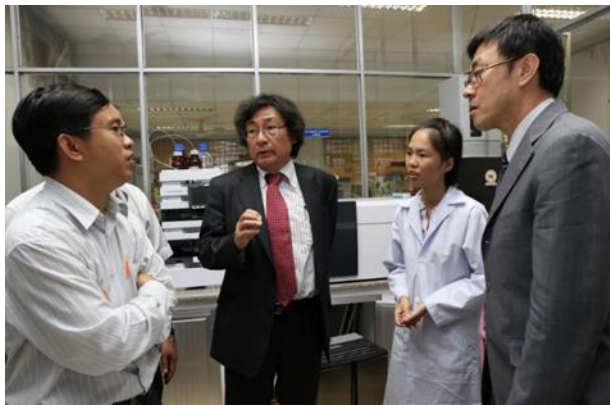
アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト(AUN/SEED-Net)は、東南アジア諸国連合(ASEAN)と日本の一連の首脳会議を経て、ASEAN 大学連合(AUN)のサブネットワークとして2001年に正式に発足した、独立行政法人国際協力機構(JICA)のプロジェクトの1つです。1997年に発生したアジア経済危機を教訓に、東南アジア地域の持続的発展のためには域内の実体経済、とりわけ産業を支える高度人材を育成する必要がある、そのためにはASEAN各国の工学系大学の教育・研究能力を向上させることが重要であるという認識の下、メンバー大学の教員の人材育成を主たる目的として、教員または教員志望者の東南アジア域内の他のメンバー大学または日本の大学の大学院プログラムへの留学や、ASEANメンバー大学と本邦大学教員による共同研究をはじめとする様々な学術活動を実施しています。

ASEANに加盟している東南アジア10か国から各国における工学分野のトップレベルの26大学が参画しており、日本から参画している14支援大学と合すると、合計40大学の大学から成るアジア域内の工学系トップレベルの大学リーグとなります。

アジア地域に広がるASEANと日本の工学系トップ大学ネットワーク



2. プロジェクトの事業実施戦略



【博士論文指導を受けた東工大の教員と出身大学に戻って研究を継続するベトナム・ホーチミン市工科大学の教員（左）】

AUN/SEED-Net では、東南アジア地域のメンバー大学と日本の支援大学のトップレベルの人的資源を最大限活用して国際的に通用する高度人材（修士・博士）を輩出するため、工学分野の「大学院連合」を形成しました。活動対象範囲として10の工学分野を定め、26のメンバー大学の中から各工学分野において地域の研究・教育活動の拠点となる大学を2～4校定め、これらを「ホスト大学」と名付けています。

ホスト大学は、他のメンバー大学の若手教員（または教員志望者）の学位取得のための域内留学先となると共に、日本の支援大学の協力のもとで、プロジェクトの中で実施される分野別活動のマネジメントを行う役割を担っています。

AUN/SEED-Net は若手教員の研究・教育能力向上のために複合的な奨学金事業を展開しており、メンバー大学の教員の能力開発や教員同士のネットワークの構築も支援しています。例えば、高位学位取得のために東南アジア地域のホスト大学に留学する奨学金プログラムでは、奨学金のほか、留学先の指導教員と日本の支援大学教員と共に実施する共同研究のための支援のほか、修了後にも研究・教育能力をさらに向上させていくべく共同研究を実施するための支援を受けることができます。

また東南アジア域内での教員、学生、産業界の関係者による学術的な交流の場として、工学分野ごとに国際学術会議を開催することを支援しています。こうした機会を通じて、研究の成果を発表し、また産業界の技術動向や学術的な情報の交換を行うことができます。

こうした活動を通じて、AUN/SEED-Net は地域の産業界への貢献、地域共通課題への工学的見地からの取り組み、そしてこの地域における科学技術の高度人材育成のプラットフォームを構築することをめざして、メンバー大学の研究・教育能力の向上とネットワークの強化を図っていきます。

3. これまでの事業成果

2001年の発足以来、3回のフェーズに分けて事業を実施してきていますが、これまでの主な活動成果は次の通りです。

(1) 1,000名を超えるメンバー大学の教員または教員志望者に対して修士号または博士号を授与しました（就学中の者を含む）。これら修了生の多くが学位を取得した後、出身の大学に戻り、大学教員として自国学生に教育に取り組んでいます。



【九州大学で博士号取得後に出身校で教員として大学院生を教育するインドネシア・ガジャマダ大学の若手教員（右から2人目）。彼の研究室にはラオス国立大学の若手教員（右端）とカンボジア工科大学からの教員志望の学生（左から2人目）が学んでいる】

(2) 700 件近くの共同研究の実施と 1,500 編の学術論文を発表しました。大学院教育と共同研究の支援を活動の中心に据え、さらに学術学会の開催や工学ジャーナルを発行して、研究活動そのものの支援と共にその成果の普及にも努めています。

【東工大教員（左端）とともにカンボジア・トンレサップ湖の環境問題に関する共同研究の計画を協議するカンボジア工科大学の若手教員たち。3 名とも本プロジェクトの学位取得プログラムで修士号・博士号を取得し、研究活動を続けている】



(3) 400 名を超える東南アジア地域からの教員と、200 名を超える日本の大学の教員による工学分野の学術ネットワークが構築されました。プロジェクトを通じて育成した人材やその指導を通じて築かれた人的ネットワークが東南アジア 10 か国と日本に面的に広がり、アジア域内に工学分野の人材育成のためのプラットフォームを構築しています。

(4) 東南アジア地域のメンバー大学の大学院プログラムの拡充と国際化に貢献しました。域内での留学生の相互受け入れの活動を通じて、留学生を受け入れる大学の大学院プログラムが整備されると共に、卒業生が母国に帰って大学教員を続ける中で自らの大学の教育プログラムの改善にも取り組んできています。これにより、より質の高い教育が各国で行われるようになってきています。

4. プロジェクト活動を通じて最近感じていること

昨今、大学の世界ランキングが注目を浴びています。この大学ランキングそのものについては様々な考え方があるのも事実ですが、東南アジアの多くの大学はこのランキングに大変注目しています。そして一部の東南アジア地域の大学のランキングが上昇してきているのも事実であり、日本の大学よりも高位にランキングされる例も散見されるようになりました。域内の大学もある意味では自信を付けてきており、日本の大学においても、ダイバシティ溢れる人材、グローバルな人材を育成していくためには、教育プログラムと大学事務の双方において、さらなる国際化が求められているように思います。

お問い合わせ先

AUN/SEED-Net 事務局（JICA プロジェクトオフィス）
Room 109-110, Building 2, Faculty of Engineering
Chulalongkorn University, Bangkok 10330, Thailand
Tel: +66 2218 6419-21 | Fax: +66 2218 6418
E-mail: info@aun-seed.net
ホームページ: www.seed-net.org

センター活動記録

バンコク研究連絡センターの4月から6月期の活動は、以下のとおりです。

センターには、タイ及びASEAN諸国との学術の国際交流を目的として、日本の研究者や高等教育関係者が訪れます。当センターは、訪問者への現地での便宜供与や学術情報の交換を行っています。また、日本との学術連携に関心のあるタイの研究者も訪れ、JSPSの国際事業の紹介や申請方法について助言しています。

詳しい活動記録は当センターホームページ (<http://jsps-th.org/>) に掲載しておりますので、ご参照ください。

4月

- 4日 大阪大学上海教育研究センター大谷順子次期センター長、チュロンコン大学水資源工学部 Piyatida 講師の来訪
- 9日 京都大学東南アジア研究所清水展教授、中西嘉宏准教授の来訪
- 18日 タマサート大学ビジネススクール Duangjai Lortanavanit 助教の来訪
- 21日 京都大学 ASEAN 拠点柴山守所長の来訪
- 28日 チュロンコン大学持続可能な開発のための教育研究開発センターAthapol Anunthavorasakul 所長の来訪

5月

- 7日 明治大学江藤賢一教授、シーナカリンウィロート大学 Wanasin Sattayanuwat 国際部及び社会連携部長補佐の来訪
- 12日 ドゥアン・プラティーブ財団教育奨学金授与式参加
- 29日 在チェンマイ日本国総領事館訪問

6月

- 2-4日 在タイ日本大使館での JASSO 日本留学フェア参加
- 12日 秋田大学教育文化学部高樋さち子准教授の来訪
- 16日 中央大学若林茂則副学長、小川正純国際プログラムコーディネーターの来訪
- 27日 京都大学地球環境学堂藤井滋穂学堂長の来訪

ブアさんのタイご案内

あなたは何曜日生まれ？

タイ人にとって曜日は大事です。ほとんどのタイ人は自分の誕生日が何曜日か知っています。あなたは何曜日生まれか知っていますか？生年月日を西暦でも仏暦でもかまいませんので、調べてみてください。タイで言われている誕生日の様々な意味がわかります。



月曜日生まれの人、

能弁な人です。口は悪けど、気遣いができて、すねっぽいけど機嫌が治るの早いです。恋愛は男性も女性も選び過ぎるのでよく別れます。それに考え過ぎでめちゃくちゃになります。話すことに気がつければ、うまく行きます。向いている仕事はビジネスマンです。でも 時には少し利己的になってもいいです。



火曜日生まれの人、

真面目な人、敏腕な人、強い体と強い心に恵まれ仕事も非常に早い。恋愛は浮気者です。我慢できなくてよく別れます。木曜日生まれの人と上手くいきます。話す時気をつけた方がいいです。皮肉ばかり言って回りの人に嫌われるかも。自分勝手なところも直した方がいいです。向いている仕事は弁護士です。



水曜日生まれの人、

熱意がある人、我慢できる人。でもよく油断します。口が上手く、活動的です。上司から可愛がられるので将来はうまく行きます。でも恋愛は良くないです。働きすぎなので結婚は遅いです。大体 30 歳以上。恋愛がうまく行くように働きすぎないでください！



木曜日生まれの人、

勤勉、真面目、不屈、聡明、孤独を愛する人です。教えることが好きなので仕事は教師とか弁護士とかに向いています。冷たい恋愛をする人です。甘くないし、ロマンチックなことは全然やらないです。将来は偉い人になって有名になれます。結婚する人はちゃんと、選ぶこと！



金曜日生まれの人、

空想好きな人、よく夢を見ます。美辞麗句を話します。芸術が好きです。おとなしい性格をしていて人を信じやすい面があり浮気ものです。チャーミングなので回りの人に好かれます。金曜日生まれの人機嫌が一番大事です。恋のことも仕事のことも機嫌を押さえたらうまくいきます。



土曜日生まれの人、

強くたくましく、センスがあります。気分をコントロールすることができます。でも強情で、高慢です。好きな人のためには勇気をもって何でもできます。強い意志を持っているので皆から信頼されますが、少し高慢なところもあるでしょう。とにかく自立心が旺盛で、何でも自分でやろうと努力するタイプです。



日曜日に生まれの人、

リーダーシップがあり、他人を助けることが好きです。気は短いけれども頭が良く意志も強く、弁が立ちで回りの人に好かれます。恋に急ぎ、恋人を作るためには何も気にしない人です。男性でも女性でも、正しいやり方を貫けば成功出来ます。





たくましい東南アジアの女性たち

日刊まにら新聞の鈴木貴太郎記者のご紹介で、フィリピンマラテ地区のカラオケに来了。所謂女の子がいる日本人向けのカラオケだ。僕はこういう所に来るとまずは身の上話を聞く。故郷は何処にあるとか、兄妹は何人いるとか。想像通り遠く離れた田舎から来た子もいれば、マニラ市内から来た子もいる。そして本当の名前を聞く。胸のバッジには Yuki だの Kimiko だの日本っぽい名前が書いてあるけど、みんなタガログ語の本当の名前を当然持っている。そして当然だけどそのタガログ語の名前は仕事上の名前よりもずっと美しい響きだ。良い名前じゃん、と僕が言うと彼女たちはとても喜ぶ。「アナたいい人ね。フィリピンのオンナのコはどう？」と僕の目をまっすぐに見つめ言ってくるのでそこですかさず「子供は何人いるの？」と聞くと、「一人」と彼女たちは悪びれもせず答える。



そう、これが現実だ。隣に座った女の子は、11人兄妹の長女で、8人兄妹の長女とか、絵に描いたような家庭事情が聞こえてくる。実家が遠くに離れている子は子供は親元に預けているらしい。マニラに実家がある子は一緒に暮らしているらしい。誰もが共通しているのは、彼女たちの子供の父親は、いない、ということ。そして長女の彼女が家族や姉弟を養っていくこと。彼女たちはそうやって愛する子供や家族を守るために夜中の3時まで働きつづける。

フィリピンには底抜けの明るさがある。カラオケの女の子達も陽気で、お客さんのために日本語を覚えて日本の歌と一緒に唄い、楽しませる。一方で、我々は彼女たちの背景にあるものを決して忘れてはならない。それでも彼女たちは逞しく生きていく。そして僕たちが彼女にしてあげられることは少ない。僕はクリスチャンでは無いのでジーザスに祈ったりはしないが、せめてもの彼女たちの幸せを仏陀に祈ってカラオケを後にした。

マラテ地区ではフィリピンの貧困層が普通に路上で寝ている。カラオケの女の子も貧困層の出身が大半を占める。貧困を根本的に解決するためには、やはり教育が重要だ。これはタイのドゥアン・プラディーブ財団を訪問して以来ずっと考えている。せめて教育を受ける機会は誰もが平等に享受できるようになってもらいたいと願う。



JSPS バンコク研究連絡センター学術情報 (2014 年 4 月～6 月)

■国の競争力を脅かす科学者の不足

高等教育局の発表した最近のデータでは、高校を卒業した学生のうち 39%が科学分野専攻を選択し、その他は、社会科学を選択していることが明らかになった。さらに、大学を卒業した段階では、科学分野の専攻は 20%になっている。この結果に対して、タイ科学技術・イノベーション政策局 (National Science Technology and Innovation Policy Office (STI)) は、将来、科学技術分野の人材が不足することを懸念している。

Kitipong Promwong STI 副事務局長は、タイの学生は、科学技術分野の職業に魅力を感じておらず、タイの国際競争力にとって、このことが深刻な問題であると懸念している。科学技術分野を専攻した学生の 38%が他の分野で就職しており、そのうちの 25 パーセントが、娯楽及やマーケティング分野での職業を選択している。

STI は、現在、科学技術省の所管する奨学金の受給者が、民間企業での 2 年間の就業を認めるために規定を見直そうとしている。これまでは、奨学金の受給者は、政府機関で一定期間勤務する前に、民間企業で働くことができなかったが、今回、規定が改定されれば、これが可能となる。この改定の目的は、民間企業に所属する研究者を増やし、企業の競争力を上げることである。タイの研究者 8 万人のうち、6 万人の研究者は大学、6000 人は公的機関に所属しており、民間企業に所属するのはわずか 30%にすぎない。Kitipong STI 副事務局長は、この改定で、教育制度改革が実行されるまでの間、しばらくは研究者不足を和らげることができるかと期待している。

1990 年から 2012 年の間、合計で 3,765 人の学生が科学技術省から奨学金を受給しており、2,193 人の卒業生がいる。彼らのほとんどが、バイオテクノロジー、環境学、材料工学、エネルギー工学、電子工学を専攻している。民間企業は、国の機関の給与にさらに上乗せして支給することができる。STI によると、4 年間の勤務経験のある博士号取得者は、国の研究機関や大学では、平均 4 万バツの給与であるが、民間の大企業では、66,000 バツである。Kitipong STI 副事務局長は、バンコクポストに対して、今回の改定案を、新政府が組織され次第、提出すると語った。

調査結果では、学生の科学技術に対する関心が下がっており、これの打開策として、STI は、タイの科学技術、工学、数学の教育の質を向上させるために、最近、アメリカ国立科学財団 (National Science Foundation) と連携を進めている。タイの教育制度は、丸暗記が主流であり、これを改め、クリティカル・シンキングを行うことを推奨しな

ければならないと Kitipong STI 副事務局長は語った。

タイの研究開発費は、2010 年と比較して、2011 年には 2 倍となり、210 億バツとなった。民間部門の研究開発費の投資額は、タイ全体の 51%を占めており、STI は、2016 年までに 70%まで引き上げることを目指している。ASEAN 経済共同体の発足が近づく中、Pichet Durongkaveroj STI 事務局長は、ASEAN 域内での研究者の養成における連携を加速し、自国の研究者を囲わないよう呼びかけている。

(4 月 15 日 Bangkok Post 紙)

■大学入試制度改革

Chaturon Chaisaeng タイ教育大臣はタイの大学入試制度改革の教育省方針を発表した。

大学入試制度は、教育の不公平性と基礎教育レベルの学校教育への影響の問題を解決するために改革しなければならない。学生は、卒業前に入学試験に申し込まなければならないため、学校のカリキュラムが軽視され、代わりに受験勉強に力が注がれている。そのために、大学入学試験制度の検討委員会が組織された。

教育大臣は、高校生が大学入試申請前に卒業するべきであるという基本方針に同意している。直接入試試験は必ず一回は実施されるべきであり、同時にそれぞれの科目で中央試験を使うべきである。しかし、GPAX (高校 3 年間の成績から累計して計算された点)、O-Net (Ordinary National Education Testing: 大学受験のための試験) のスコア、内申点についても個別の入試について参照することが出来る。

新制度は次のアカデミックイヤーから開始される。タイ大学長会議及びタイ私立大学連盟は原則として新しい制度を受け入れることに同意した。彼らは、この問題について、5 月に最終結論を出す前に再度議論する。

また、試験の開発についても、重要な決定が行われた。試験は大学の要求に基づき、統一化されなければならない。入試を担当する The National Institute of the Educational Testing Service (NIETS) は、試験が、大学の要求を満たした内容であるとともに、GPAX, O-Net や基礎教育カリキュラムの内容とも一貫性が取れるよう、対応を求められている。大学入学試験制度の検討委員会は、大学入試試験が改善されるよう、今後も検討を続ける。大学側にも、基礎教育局及び NIET との連携が求められている。

(4 月 18 日 タイ教育省)

■タイ高等教育局、私立大学の監視を強化

Tossaporn Sirisamphan タイ高等教育局事務局長は、タイ高等教育局の会議での合意を経て、これまでカレッジ(短期大学)から四年制大学に昇格した 35 の私立大学の監視と調査を実施すると発表した。これは、これらの大学が当初提案した計画通りに教育が実践されているかを保証するためのものである。本件について、下記の通り二期に分けて調査を実施する予定である。

第一期：第一期は四年制大学に昇格してから 10 年以内であり、またその水準に対して問題がある大学に対して直ちに実施される。15 大学が対象。

第二期：残りの 20 の私立大学の監視と調査を実施する。

本調査は公平性の原則、事実証拠に基づく透明性、説明責任について重点的に取り組み、教育管理の質の向上を目的としている。調査は、次の基準に基づいて判断される。

1. 高等教育局によってデザインされたカレッジ(短期大学)から四年制大学への転換の承認のために満たすべき条件
2. 四年制大学の地位を獲得するために実施すべき運営実施計画の詳細
3. 大学の教育管理がカリキュラムと他の関連分野の水準に相応しいものとなっているか
4. 大学の基本情報及び長期戦略
5. 前年度の大学の質保証の取り組み

本調査は、ピアレビューにより実施する。調査の後、当初の運営計画に沿っていない、大学の質が水準に足りていない、または改善を要する大学は、現状を是正する期間として 2 学期間が与えられ、その後再調査を受ける。各大学は問題が解決されたことを、報告書の提出、もしくは再度の個別調査を受けることで証明する機会が与えられる。もし大学が改善出来なければ、高等教育局に現状が報告され、再検討される。最悪の場合、大学の認可が取り下げられる。

(5 月 6 日 タイ教育省)

■大学ランキング上昇のためのアジアの大学の様々な戦略

国連教育科学文化機関(UNESCO)統計局より、アジアの大学の入学需要の拡大に伴う課程や研究の質の向上の取り組みをまとめた報告書、“Higher Education in Asia: Expanding Out, Expanding Up”が 5 月に発行された。その要旨は以下のとおり。

需要の拡大に伴う大学の変化

アジア全体で、各国政府は、キャンパスの建設や、教員の雇用、私立大学の設立を支援し、高等教育制度は拡大している。各大学も、新たな大学院プ

ログラムを導入し、より質の高い教員を輩出し、高等教育の需要拡大に答えようとしている。各国は、大学院プログラムの設立に投資を増加させているが、これは、学部レベルの教育予算の減少につながる懸念される。当報告書は、マレーシアとタイの高等教育政策を分析し、両国が、自治の拡大と学部レベル教育の質の保証を、どのようにバランスをとっているかに焦点を当てている。両国の政府は、過去 10 年間、大学院教育プログラムの拡大に取り組んできた。

マレーシア政府は、一人当たりの学生への予算が、タイのおよそ 2 倍である。しかし、タイの大学のほうが、マレーシアの大学よりも、より幅広い資金源を持ち、大学運営の独立も確保されている。アジア全体で、各国は、研究開発の基盤強化にも取り組んできた。研究開発の力の入れ方は各国で大きく異なっている。(研究開発費は、)韓国では、(GDP の) 4.0%、中国では 1.8%、マレーシアでは 1.1%、インドでは 0.8%、タイでは 0.25%である。当報告書は、各国政府の応用研究と基礎研究への投資額の比較も掲載している。

研究予算

例えば、タイでは 38%の研究開発予算が応用研究に投資されているのに対して、14%が基礎研究に投資されている。残りの 48%の予算は、実験開発に投資されている。

これとは対照的に、中国は、78%の研究開発予算を実験開発に、17%を応用科学に、5%を基礎研究に投資している。ユネスコバンコクの Gwang-jo Kim 所長は、本報告書は、各国政府が、多くの人々がアクセスでき、社会や国の需要に答えることのできる質の高い大学を作っていくための指針となるだろうと述べた。

“Higher Education in Asia: Expanding Out, Expanding Up”は、以下の国連教育科学文化機関(UNESCO)統計研究所のホームページよりダウンロード可能

<http://www.uis.unesco.org/Education/Pages/higher-education-asia-report.aspx>

(5 月 14 日 Nation 紙)

■キングモンクット工科大学ラカバン(KMITL)、タイ国学術会議(NRCT)と学術交流協定を締結し、教育イノベーションの創造を推進

キングモンクット工科大学ラカバン(KMITL) Suchatchawee Suwansawad 工学部長は、タイの高等教育機関における科学技術の推進の必要性について以下のとおり述べた。

KMITL は、現在 JSPS のタイ国対応機関であるタイ国学術会議(NRCT)と連携し、科学の知識を社会に広める取り組みと、IC-HiEd(発明コンテスト)の実施を予定している。このプロジェクトは高等教育レベルのもので、2)代替エネルギーを

用いる発明、2) 農業機械、3) 医療機器の三つのカテゴリーに分類される。

本プロジェクトは学生の想像力に富んだ創造性を引き出し、タイ社会経済の発展に寄与する革新的な研究プロジェクトを推進する。タイの大学の教員はIC-HiEdの開催前に、セミナーに招へいされ、科学技術に関する知識の共有を図ることが出来る。IC-HiEdは9月にKMITLの工学部で実施される予定である。

Suchatchawee 工学部長は、本プロジェクトが、大学と学生のイノベーションを創出し、それによって教育社会経済に利益をもたらすことを期待している。IC-HiEdの高等教育における目的は下記の通りである。

- 1) 代替エネルギー、農業機械、医療機材の知識の発信と教育
- 2) 代替エネルギー、農業機械、医療機材にかかる発明コンテストの開催
- 3) 高等教育機関の学生による発明研究ネットワークの構築

(5月27日 タイ教育省)

■高等教育局、省へ引き上げの議論

教育は、国家平和秩序維持評議会 (National Council for Peace and Order (NCPO)) の重要な改革分野のひとつである。

タイ大学学長会議 (Council of University Presidents of Thailand (CUPT)) の Pradit Wanarat 副会長は、高等教育局を省に昇格し、大学省を設置すべきだと提言している。20年前、タイには大学省があったが、省庁制度改革の中で、教育省の一部である高等教育局に改変された。以後、大学省を復活させようという動きはあったが、独立法人化した大学を管轄するための省を設置する必要性を十分に説明することができず、実現しなかった。

現在大学は、それぞれの大学の規則の元で運営されており、そのうちの多くの大学が、現在、独立法人化の過程にあり、省庁制度から独立している。しかし、タイ国内には100以上の大学があり、アジアや世界の大学ランキングに名を連ねることのできる大学はほんの2、3大学のみであることを考慮すると、その組織自体があまり強固なものではないことがわかる。国から自立した大学運営を行うということは、国に依存しない会計システムに加えて、独自の資金の調達源が必要である。現在、類似した学部を保有する大学同士の教員や学生の交流連携はあまり進んでいない。

大学間の格差も広がっており、潤沢な資金のある大学は、学生をさらに集めるために、魅力的なコースを設置することができるが、弱小大学の場合は、それができない。この結果、こういった弱小

大学に進学する、主に地方の学生(その学生数は、エリート大学の学生数より遥かに多いが)が不利益をこうむっている。

Yingluck 前政権においてカリキュラムの改革を担当した教育専門家である Pavich Thongroj 氏は、それぞれの大学は、目標とアクションプランを差別化するべきであると述べ、以下のような改革案を主張している。全国の3万の小中学校、何千もの職業学校及び私立学校を管轄する教育省の中の一つの小さな局では、高等教育局の施策や執行はほとんど無視されてしまう。

また、職業教育局 (Office of Vocational Education Commission) も新たに設置する省の中に加えるべきである。これは、民間企業に歓迎される提案である。民間企業は、タイの製造業を進歩させるために、高い技術と知識を持った人材を求めている。タイは、もはや、安い労働力の中心地ではないが、タイの企業は、十分な人材がなければ発展することができない。Pavich 氏は、大学はより研究を重視するべきであると主張している。しかし、高等教育局が教育省の管轄下にあつては、研究予算を十分に獲得することができない。

Suthasri Wongsaman 教育省事務次官は、6月の初めに、今後の教育改革について以下のとおり述べた。

NCPOの管轄の下、歴史と道德教育、及び、英語を中心に、教育カリキュラムの改革を進める。また、教員の数も増やす予定である。大学の研究所の設置も促進する。タイの教育機関は、すべての国民に教育の機会を平等に提供し、ASEAN 経済共同体へ向けて準備しなければならない。

しかし、これらの改革目標は、基礎的な問題が解決されない限り達成されない。Pavich 氏は、NCPOが、様々な分野からの意見に耳を傾け、包括的な改革プランを策定するために、教育教育評議会を立ち上げることを提言している。

(6月9日 Nation 紙)

■タイ軍事政権の国家平和秩序評議会 (NCPO) による教育政策

2014年6月9日に実施されたタイ教育省の幹部会議を経て、Suthasri Wongsamarn タイ教育大臣代理 (事務次官) はタイ軍事政権の国家平和秩序評議会 (NCPO) の教育政策について発表した。

NCPOの教育政策は、全ての教育内容の方向性を統一させることを目指している。若者は国を愛し、タイの価値、アイデンティティ、歴史の重要性を完全に理解することが奨励され、国家の持続可能な発展のために、自己修養及び心身の強化に励まなければならない。さらに NCPO の政策は ASEAN 経済共同体発足に向けて、研究開発にも注力する。

NCPO の教育政策は以下の通り。
(科学技術に関する箇所のみ抜粋)

1) 実用的なプロジェクトに対する研究開発に対して十分な予算の配分。イノベーションは、国内の資源を利用して発展することが望ましく、これによって、雇用を創出し、特に、農業分野において生産品の付加価値を高めることが期待される。

2) タイにおける研究、開発生産、及び物流を支援する海外からの投資を促進し、輸出品の競争力を向上させる。

(6月12日 タイ教育省)

■タイ 2 大学 THE アジア大学ランキング 100 位内に入る

2014 年 6 月 19 日に発表された THE アジア大学ランキング 2014 において、昨年より 5 位上昇し、キングモンクット工科大学トンブリ校がアジアのトップ 50 位になった。タイの大学がアジアの大学ランキングで 50 位以内に入るのは初めてである。タイの大学で 2 番目はマヒドン大学で、昨年より 21 位ランクを落とし、82 位に入った。一方、チュラロンコン大学は、昨年は 82 位であったが、今年は上位 100 位以内には入らなかった。

THE 大学ランキングのコーディネーターである Phil Baty 氏は、この結果について以下の通り述べた。今年のランキングは、タイの大学にとってプラスとマイナス両方があった。今回の結果を受けて、タイは、高等教育における国際的な競争力をつけるためには、さらなる努力が必要であると理解したはずだ。マヒドン大学のスコアは、昨年とほぼ変わらず、2013 年は全体のスコアが 28.7 であり、2014 年は微減し、26.7 であった。チュラロンコン大学は、トップ 100 より少し下に位置づけられている。

キングモンクット工科大学トンブリ校は、2013 年から論文の被引用数を伸ばしており、これは、国際的に同大学の論文が引用されていることを示している。近い将来、アカデミックコミュニティから同大学の業績がより注目されるようになり、同大学の評価に良い影響をもたらすだろう。同大学の今年の総合スコアは昨年度の 30.3 から上昇し、33 であった。非常に競争の激しい国際的なランキングの中で、同大学が 50 位以内に入ったことは、驚くべき成果である。

Baty 氏によると、同ランキングにおいて多くの大学がランキングに入った国や地域は、高等教育に多額の資金を注ぎ、海外のパートナー大学と連携を強め、国際化を推進している。これらはすべて、大学のランキングを上げるために重要な要素である。2014 年のアジアの大学のトップは、東京大学、2 位シンガポール大学、3 位香港大学。

(6月23日 Nation 紙)

■チュラロンコン大学論文盗用対策ソフトウェア活用

チュラロンコン大学は、他の 17 大学及び機関とともに、学生の提出した論文に盗用がないかどうかを調べる Akarawisut というプログラムを採用することに同意した。チュラロンコン大学 Pirom Kamolratanakul 学長によると、これらの大学は、学生の論文の質の維持に努めるために、今回、Akarawisut プログラムの使用に関する学術協定を結んだ。

これまでチュラロンコン大学は、論文盗用の問題の解決のために力を注ぎ、盗用を発見するための手段を複数立ち上げてきた。これらの方法が、テキスト分析ソフトウェアである Akarawisut や Turnitin の開発につながった。これらのソフトウェアは、2013 年には 1,000 以上の論文に適用された。この論文盗用対策をさらに拡大するために、チュラロンコン大学は、協定に基づき、他の教育機関に無料で Akarawisut ソフトウェアを使用することを認めた。

この連携により、タイの学生のポストドク論文の質の向上と学術倫理観を身に着けることにつながることを期待されると Pirom 学長は述べた。チュラロンコン大学大学院 Amorn Petsom 大学院長は、ソフトウェアの使用協定により、論文盗用を発見し、また学生が盗用することを防ぐための機関間の連携の第一歩となったと評価した。

さらに、同氏は「チュラロンコン大学は、人材が国家の発展の基礎であると信じており、質の高い卒業生と教員を輩出したい。今日、技術の進歩により、論文盗用がとても簡単になっているが、このソフトウェアの活用によってそれを防ぐことができる。他機関との連携もまた重要である。」と述べた。

(6月26日 Bangkok Post 紙)

■サイエンスパーク活用で研究開発力の強化

ASEAN 諸国が、市場を統合し、国際的な競争力を上げようと努力している一方で、タイは、研究開発に力を入れ、シンガポールやマレーシアといった域内の競合国に追いつこうとしている。

民間部門の研究開発への投資を後押しするために、タイ政府は、1989 年にタイサイエンスパークの設立を認可し、2002 年にパトゥムタニ県で稼働を開始した。タイ国立科学技術開発庁 (The National Science and Technology Development Agency (NSTDA)) は、その施設を、研究者が専門知識を共有し、新たなテクノロジーを共に創出する、官民参画型の研究コミュニティと位置づけている。

現在、タイ国内の研究開発費のおよそ 10 から 12% がタイサイエンスパークで使われている。アジア諸国の中で、シンガポール、マレーシア、中国、

日本は研究開発において遥かに先を行っているが、タイがこれらの国に追いつく望みはある。

「タイサイエンスパークは、施設を拡大し、第2フェーズが今年完成した。タイの研究開発は、これまでよりもずっと速いペースで活発になっていくだろう」と NSTDA の副理事長も兼任する Janekrishna Kanatharana タイサイエンスパーク部長は述べた。

4つの研究機関に加えて、70近い企業、3つの大学と1つの医科大学がサイエンスパークに拠点を置き、活動している。この施設は、また、NSTDAの本部も入っており、1,600人のフルタイムの研究者を含む2,700人の職員が働いている。

サイエンスパークで活動する研究者の専門分野は多岐にわたっており、バイオテクノロジー、情報科学、金属および材料工学、ナノテクノロジー分野なども含まれている。

国内外の企業が、研究開発のためにタイサイエンスパークの第1フェーズを活用してきた。その中には、タイの最も大きな複合企業であるサイアムセメントグループ（SCG）が建築資材の研究開発拠点を設置している。他にも、農業メーカーの Betagro Group、PTT Phenol、砂糖メーカーの Mitr Phol Group、国外の企業では大成工業や住友ゴム（タイランド）が含まる。

Janekrishna タイサイエンスパーク部長は、タイは研究開発に着手することが少し他国よりも遅かったと認識している。サイエンスパークの構想は、1989年に始まったものの、クーデターや官僚主義、また、政府の頻繁な交代、そして1997年の金融危機により、設置が止まってしまっていた。2002年になってやっと稼働した。

その後10年以上がたったが、タイの研究開発への投資はいまだに非常に低いままである。研究開発への投資は、2012年には、世界の平均がGDPの2%であるのに対して、タイは、0.4%にすぎなかった。政府は、これを2016年までに1%に上げようとしている。また、多くの国で研究開発分野は民間部門が牽引しているのに対して、タイでは、政府や国の機関が投資額のうちの60%を占めている。

シンガポールでは、シンガポール国立研究基金によると、研究開発費は、1991年には、7億6千万シンガポールドル、すなわち、GDPの1%であったが、2009年には、60億シンガポールドル、すなわち、GDPの2.3%に増加した。シンガポール通商産業省は、2015年までに、研究開発費がGDPの3.5%にまで達すると予想している。シンガポール政府だけでも、2011年から2015年の間に研究開発、起業のための予算に米ドルで合計161億ドルを配分している。

中国では、世界銀行の推定によると、2012年には、GDPの1.98%を研究開発費として支出しており、これは欧州連合の1.96%をわずかに上回っている。中国財政部によると、科学技術開発費は、2006年には1690億元であったが、2012年には、5600億元まで増加している。

台湾は、長い間、他国で開発された製品の組み立てを請け負う国であったが、その後、世界的にも競争力のあるハイテクノロジーブランドを生み出してきた。政府が発表した最新のデータによると、研究開発費は、2012年には、144億米ドル、すなわち、GDPの3.06%であった。このうち、67%がテクノロジー開発費に当てられている。

隣国、マレーシアでは、研究開発費は、これまで非常に小さな額であったが、近年、その増加に務めている。マレーシア科学技術情報センターによると、2011年には、研究開発費の総額は、942億リンギットすなわち、GDPの1.07%であった。これは、2000年の16.7億リンギットから5倍の増額である。

Janekrishna サイエンスパーク部長は、サイエンスパークの存在は、その国の経済発展を加速させ、投資を呼び込むと考えている。中国は、その典型的な例であり、以前は、他国で開発されたブランドの製造を請け負うだけであったが、今では、技術を発展させ、自国のブランドを立ち上げることができるようになった。中国には、今日では、サイエンスパークが80箇所もある。

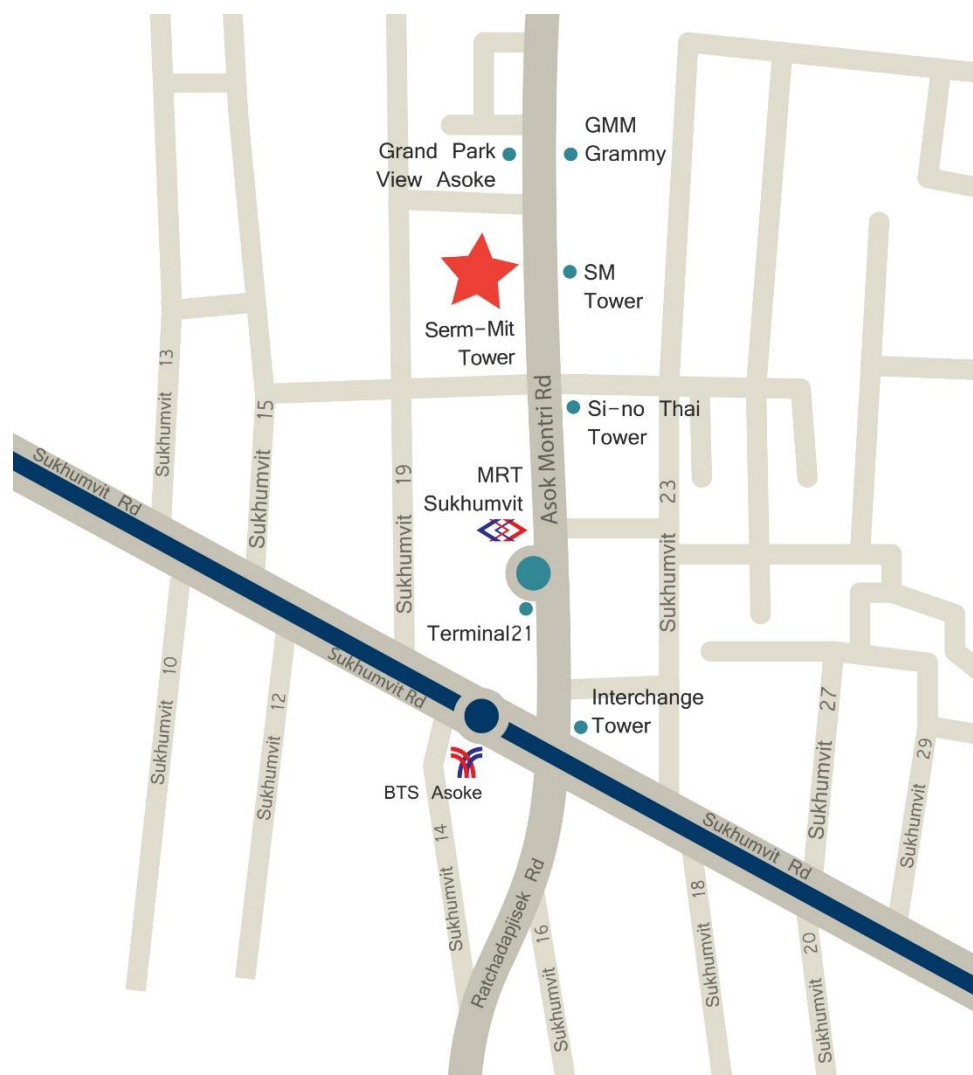
また、ASEAN域内のサイエンスパークの建設状況にも言及し、以下のとおり述べている。

「ASEAN経済共同体は、ASEAN諸国がより研究開発に焦点を当てるようになるよいきっかけである。インドネシアは、現在、サイエンスパークの設立の過程にあり、ベトナムにはハノイとホーチミンの2箇所すでに設置されている。ASEAN域内では、シンガポールは、研究開発分野で最も進歩しており、これに続くのがマレーシアとタイである。他の2国に比べるとタイサイエンスパークの歴史は非常に浅いが、設備を向上させ、民間企業の実施を手助けする質の高い研究者がいる。」

タイサイエンスパークは現在、パトゥムタニ県一箇所であるが、チェンマイ、コンケン、ハジャイ、チョンブリにも建設予定である。Janekrishna サイエンスパーク部長は、「サイエンスパークが、工業団地のように、タイ国内で、急激に広がることを期待している。今、グローバル市場で生き残るために、民間企業は研究開発を行わなければならない。」と述べた。

(6月30日 Bangkok Post 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センターの所在地



日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533 fax +66-2-661-6535

Website: <http://jps-th.org>

Email: jpsbkk@jps-th.org

■編集後記

今回の「バンコクの風」では、AUN/SEED-Net 事務局の小西伸幸副チーフアドバイザーに日本とASEAN地域の学術連携について、情報提供いただきました。小西副チーフアドバイザーには、大変お忙しいスケジュールの中ご寄稿いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

今後も、様々な方の視点を交えながら、ASEANの大学や研究機関がどのように発展し、変化しているのか、「バンコクの風」の中で旬な情報をお届けしていきたいと思います。

(バンコクセンター国際協力員 轟 裕美)